

## 参考文献

## (A)

- 足立啓, 2005, 『既存特別養護老人ホームにおける認知症ユニットケア環境の整備・開発に関する研究』2003-2004年度ニッセイ財団高齢者福祉実践的研究最終報告書, 和歌山大学.
- , 2006, 『従来型施設における痴呆性高齢者環境支援指針の適用による環境改善手法の開発と効果の多面的評価』2004-2005年度厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業報告書, 和歌山大学.
- , 2008, 『従来型特別養護老人ホームのユニット化および環境改善手法の研究』2006-2007年度厚生労働省科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 和歌山大学.
- 秋葉都子, 2007, 『「ユニットケア導入に当たり参考となるシステムの開発」報告書——ユニットケア普及と質の向上のための人材育成の方策』平成18年度老人保健事業推進等補助金成果報告書, 認知症介護研究・研修仙台センター ユニットケア推進室.
- 天田城介, 2004, 『古い衰えゆく自己の／と自由』ハーベスト社.
- , 2008, 『〈古い衰えゆくこと〉の社会学』多賀出版.

## (B)

- Blumer, H.G., 1969, *Symbolic Interactionism*, New Jersey: Prentice-Hall. (=1991, 後藤将之訳『シンボリック相互作用論——パースペクティブと方法』勁草書房.)

## (D)

- 大道安次郎, 1966, 『老人社会学の展開』ミネルヴァ書房.

## (E)

- Eisler, R., 2007, *The Real Wealth of Nations: Creating a Caring Economics*, California: Berrett-Koehler Publishers. (=2009, 中小路佳代子訳『ゼロから考える経済学——未来のために考えておきたいこと』英治出版.)

## (F)

- 福岡寿編, 2002, 『コーディネーターがひらく地域福祉』ぶどう社.  
 船津衛, 1995, 「『自我』の社会学」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉  
 編『岩波講座 現代社会学 2 自我・主体・アイデンティティ』岩波書店, 45-68.  
 ———, 2008, 『社会的自我論』放送大学教育振興会.

## (G)

- Goffman, E., 1961, *Asylums: Essays on the Social Situation of Mental Patients and Other Inmates*, New York: Doubleday & Company. (=1984, 石黒毅訳『ゴッ  
 フマンの社会学 3 アサイラム——施設被収容者の日常生活』誠信書房.)

## (H)

- 橋本正明, 1979, 「老人ホームにおける処遇の実際—— 一般的アプローチ」全社協・老人  
 ホームにおける入所者処遇に関する研究会編『老人ホーム処遇論』全国社会福祉協議  
 会, 134-49.  
 橋本正明編, 1996, 『特別養護老人ホームの個室化に関する研究』厚生省老人保健健康増  
 進等事業費補助金報告書, 特別養護老人ホームの個室化に関する研究委員会.  
 早川和男・岡本祥浩, 1993, 『居住福祉の論理』東京大学出版会.  
 早川和男・野口定久・武川正吾編, 2002, 『居住福祉学と人間』三五館.  
 早川和男・吉田邦彦・岡本祥浩編, 2006, 『居住福祉学の構築』信山社.  
 早坂裕子・広井良典編, 2004, 『みらいを拓く社会学——看護・福祉を学ぶ人のために』  
 ミネルヴァ書房.  
 稗田健志, 2005, 「政策ネットワークと社会福祉改革——介護保険法と改正児童福祉法の比  
 較立法過程研究」『大原社会問題研究所雑誌』555: 36-51.  
 平野隆之, 2008, 『地域福祉推進の理論と方法』有斐閣.  
 平野隆之・宮城孝・山口稔編, 2008, 『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣.  
 平山正美, 1995, 「ライフサイクルからみた老いの実相」無藤隆・麻生武・内田伸子・落合良行・楠  
 見孝・南博文・やまだようこ編『講座 生涯発達心理学 5 老いることの意味——中年・老年  
 期』金子書房, 153-88.  
 広井良典, 2000, 『ケア学——越境するケアへ』医学書院.  
 ———, 2005, 『ケアのゆくえ科学のゆくえ』岩波書店.  
 Hochschild, A.R., 1983, *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*,  
 Oakland: University of California Press. (=2000, 石川准・室伏亜希訳『管理さ  
 れる心——感情が商品になるとき』世界思想社.)  
 北海道特別養護老人ホーム・老人保健施設サービス評価委員会特別養護老人ホーム部会,  
 1998, 『特別養護老人ホームサービス事例集』北海道.  
 本間照雄, 2002, 「敬老会で見ると高齢者福祉施設の現状——個室ユニットケア型特養『杜の  
 風』の事例研究」『東北文化研究室紀要』44: 53-71.  
 ———, 2004a, 「高齢者福祉施設における『看取り』の問題——宮城県 M 施設及び S 施

- 設の事例から』『東北文化研究室紀要』46: 29-41.
- , 2004b, 「町民共有の我が家(別宅)を目指した施設づくり—住民参加による施設づくり・まちづくり」永井彰編『2004年度社会調査実習 鶯沢町における生活実態調査報告書—地域福祉を考えるために』東北大学大学院文学研究科社会学研究室, 81-91.
- , 2004c, 「知的障害者の地域移行に内在するコンフリクト」『みやぎ政策の風』宮城県, 1: 92-100.
- , 2006, 「個別支援から考えるケアの基本——ユニットケアの発展を通じて」『おはよう21』4(207): 10-4.
- , 2008, 「知的障害を持つ二人の日常にみる地域生活の実像」永井彰編『地域ケア・システムの展開過程にかんする社会学的比較研究』平成16年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書, 59-76.
- 2010, 「高齢者福祉を考える——福祉の担い手に着目した事例から」『福祉みやぎ』宮城県社会福祉協議会, 552: 2-3.
- 本間照雄・小川裕美, 2002, 「異なる施設形態下での介護行為の違いについて——従来型特養と全室個室ユニット型特養の比較から」『総合ケア』12(9): 48-53.
- 堀田力編, 2003, 『2015年の高齢者介護——高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて』高齢者介護研究会.

## (I)

- 一番ヶ瀬康子・高島進・高田真治・京極高宣編, 1999, 『講座 戦後社会福祉の総括と二一世紀への展望 I 総括と展望』ドメス出版.
- 一柳豊勝・品川満紀編, 1979, 『社会福祉の歴史』相川書房.
- 池田啓子, 1997, 「老いの危機管理——生きられた経験としての阪神大震災」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉田俊哉編『岩波講座 現代社会学 13 成熟と老いの社会学』岩波書店, 161-78.
- 井村圭壯, 2005, 『日本の養老院史——「救護法」期の個別施設史を基盤に』学文社.
- 井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編, 1995, 『岩波講座 現代社会学 3 他者・関係・コミュニケーション』岩波書店.
- , 1996, 『岩波講座 現代社会学 9 ライフコースの社会学』岩波書店.
- 井上由起子, 2006, 『いえとまちのなかで老い衰える——これからの高齢者居住システムと器のかたち』中央法規.
- 井上由起子・外山義・小滝一正・大原一興, 1997, 「高齢者居住施設における入居者の個人的領域形成に関する考察——住まいとしての特別養護老人ホームのあり方に関する研究 その1」『日本建築学会計画系論文集』501: 109-15.
- 医療経済研究機構, 2003, 「特別養護老人ホームにおける終末期の医療・介護に関する調査研究」医療経済研究・社会保険福祉協会.
- 伊藤周平, 2005, 『「改正」介護保険と社会保障改革』山吹書店.
- 伊藤達也, 1994, 『生活の中の人口学』古今書院.

## (K)

- 神谷美恵子, 2004, 『生きがいについて』みすず書房.
- 春日キスヨ, 1997, 「介護——愛の労働」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座 現代社会学 13 成熟と老いの社会学』岩波書店, 179-96.
- , 2000, 『介護にんげん模様——少子高齢社会の「家族」を生きる』朝日新聞社.
- , 2001, 『介護問題の社会学』岩波書店.
- , 2003, 「高齢者介護理論のパラダイム転換とケア労働」『思想』995: 217-36.
- 加藤仁, 2007, 『介護の「質」に挑む人びと——新しい扉をひらいた二十八人』中央法規.
- 河東田博・孫良・杉田隠子・遠藤美貴・茶川正彦, 2002, 「ヨーロッパにおける施設解体——スウェーデン・英・独と日本の現状」現代書館.
- 小磯明, 2009, 『地域と高齢者の医療福祉』御茶の水書房.
- 木戸功・圓岡偉男, 2002, 『社会学的なまなざし——日常性を問い返す』新泉社.
- 北場勉, 2000, 『戦後社会保障の形成——社会福祉基礎構造改革の成立をめぐる』中央法規.
- Kornhaber, A. and K. L. Woodward, 1981, *Grandparents, Grandchildren: The Vital Connection*, Garden City, N. Y. : Anchor Press/Doubleday. (=1990, 和久明生・石川啓一訳『孫とのちょっといい関係』同文書院.)
- 厚生労働省, 2002, 『平成12年介護サービス施設・事業所調査』.
- , 2003, 『平成13年介護サービス施設・事業所調査』.
- , 2004, 『平成14年介護サービス施設・事業所調査』.
- , 2008, 『厚生労働白書(平成20年版)』.
- , 2009, 『厚生労働白書(平成21年版)』.
- 厚生省, 1994, 『21世紀福祉ビジョン—少子・高齢社会に向けて』.
- , 1997, 『厚生白書(平成9年版)』.
- , 2000, 『厚生白書(平成12年版)』.
- 厚生省社会局老人福祉課監修, 1984, 『改訂老人福祉法の解説』中央法規出版.
- 厚東洋輔, 1991, 『社会認識と想像力』ハーベスト社.
- 栗原彬, 1997, 「離脱の戦略」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座 現代社会学 13 成熟と老いの社会学』岩波書店, 39-60.

## (M)

- 丸森町, 2009, 『丸森町高齢者福祉計・介護保険事業計画(平成21年~平成23年)』.
- 増山幹高, 1998, 「介護保険の政治学——政策理念の対立と収斂」『日本公共政策学会年報』1998: 1-26.
- 松岡昌則, 1991, 『現代農村の生活互助——生活協同と地域社会関係』御茶の水書房.
- , 2007, 「村落と農村社会の変容」『講座 社会学 3 村落と地域』東京大学出版会, 63-91.
- 松谷明彦, 2004, 『人口減少経済の新しい公式』日本経済新聞社.
- Mayeroff, M., 1971, *On Caring*, New York: Harper&Row. (=2003, 田村真・向野宜之訳『ケアの本質——生きることの意味』ゆみる出版.)
- 三重野卓, 2000, 『生活の質と共生』白桃書房.

- 三重野卓・平岡公一編書, 2000, 『福祉施策の理論と実際 福祉社会学研究入門』東信堂.
- 南博, 1994, 『日本人論——明治から今日まで』岩波書店.
- 峰島厚, 2003, 『希望の持てる「脱施設化」とは』かもかわ出版.
- 三井さよ, 2004, 『ケアの社会学——臨床現場との対話』勁草書房.
- 三浦文夫, 1979, 「老人ホームの役割——老人ホームの今後のあり方」全社協・老人ホームにおける入所者処遇に関する研究会『老人ホーム処遇論』全国社会福祉協議会, 25-33.
- 宮嶋秀光, 1994, 「老人——その教育的役割と発達課題」岡田渥美編『老いと死——人間形成論的考察』玉川大学出版部, 253-74.
- 宮田登, 1996, 『老人と子供の民俗学』白水社.
- 宮城県, 2000, 『特別養護老人ホーム・老人保健施設サービス評価事業実績報告書』.
- , 2005, 『未来志向研究プロジェクト事業宮城県共生型グループホーム生活環境等研究』平成16年度老人保健事業推進費等補助金報告書, 宮城県地域福祉課.
- , 2009, 『第4期みやぎ高齢者元気プラン』.
- , 2010, 『平成21年度版 宮城県社会経済白書』.
- 宮城県福祉事業団, 2003, 『明日の福祉に向かってのはばたきプラン』.
- 三好春樹, 1993, 『専門バカにつける薬』筒井書房.
- , 2004, 「介護夜汰話 『家庭』より『雑踏』のほうが寛容である」『月刊プリコラージュ』七七舎, 126: 2-3.
- , 2005, 『介護の専門性とは何か』雲母書房.
- 森村修, 2000, 『ケアの倫理』大修館書店.

## (N)

- 永井彰, 2002, 「高齢者の地域ケアをめぐる今日の問題状況」『文化』66(1.2): 95-108.
- 長野県, 2008, 『高齢者等実態調査』長野県社会部長寿福祉課, 9.
- 中村義哉, 2008, 「『よいケア』とは何か——来るべき『ふつうのケア』の実現のために」上野千鶴子・大熊由起子・大沢真理・神野直彦・副田義也編『ケアその思想と実践 2 ケアすること』岩波書店, 55-74.
- 中西正司・上野千鶴子, 2003, 『当事者主権』岩波書店.
- 中山進・上野慎也編, 2005, 『地域公共圏の構想 I 山間地域の崩壊と存続』九州大学出版会.
- 内閣府, 2006, 『高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査』.
- , 2009, 『高齢社会白書(平成21年版)』.
- 二木立, 1994, 『世界一の医療費抑制政策を見直す時期』勁草書房.
- , 2007, 『介護保険制度の総合的研究』勁草書房.
- 認知症介護研究・研修東京センター編, 2007『改訂 利用者の生活を支えるユニットケア』中央法規.
- 認知症介護研究・研修東京センターユニットケア推進室, 2010, 『平成21年度後期ユニットリーダー研修ハンドブック』社会福祉法人谷風会.

## (O)

- 帯谷博明, 2004, 『ダム建設をめぐる環境運動と地域再生——対立と協働のダイナミズム』昭和堂.
- 小川浩美, 2006, 「利用者のケアをどう構築するか」『おはよう 21』4(207): 16-22.
- 岡田武世, 1996, 『人間発達と社会福祉——自立と連帯と参加の基盤を求めて』川島書店.
- 岡澤憲芙, 2007, 『福祉ガバナンス宣言——市場と国家を超えて』日本経済評論社.
- 奥野信宏, 2006, 『公共の役割は何か』岩波書店.
- 奥山久美子, 2003, 『のぞみホームの静かな力——新しい介護の生まれ方, 育ち方』筒井書房.
- 恩田守雄, 2008, 『共助の地域づくり——「公共社会学」の視点』学文社.
- 大原一興・石垣修一・萩野光彦・豊増省三・福本京子・山下哲郎「個室ユニットケアのこれから」『医療福祉建築』149: 2-7.
- 大橋謙策・千葉和夫・手島陸久・辻浩編書, 2000, 『コミュニティソーシャルワークと自己実現サービス』万葉社.
- 大久保孝治, 2008, 『日常生活の社会学』学文社.
- 大森彌編, 2002, 『高齢者介護と自立支援——介護保険のめざすもの』ミネルヴァ書房.
- 大村洋永, 2007, 『ユニットケアの導入に当たり参考となるシステムの開発——ユニットケアの普及と質の向上のための人材育成の方策』認知症介護研究・研修センター.
- 大野晃, 2005, 『山村環境社会学序説——現代山村の限界集落化と流域共同管理』農山漁村文化協会.
- 大岡頼光, 2004, 『なぜ老人を介護するのか——スウェーデンと日本の家と死生観』勁草書房.

## (R)

- Raymond, Jack ed., 1998, *Residential Versus Community Care: The Role of Institutions in Welfare Provision*, New York: Macmillan. (=1999, 小田兼三・杉本敏夫・斉藤千鶴・久田則夫監訳『施設ケア対コミュニティケア』勁草書房.)
- Relph Edward, 1976, *Place and Placelessness*, London: Pion Limited. (=1991, 高野武彦・阿部隆・石山美也子訳『場所の現象学——没場所性を越えて』筑摩書房.)

## (S)

- 齋藤俊・菊池奈津子, 2006, 「日々のかかわりの中にある『ケアする技術』」『おはよう 21』4(207): 24-43.
- 佐久間政広, 1999, 「山村における高齢者世帯の生活維持と村落社会——宮城県七ヶ宿町 Y 地区の事例」『村落社会学研究』農山漁村文化協会, 5(2): 36-47.
- , 2003, 「地域社会における『助け合い』の可能性」『社会学研究』第 73 号: 49
- 迫田朋子・川添哲也・竹内哲也・平田知弘・戸沢冬樹・佐々木とく子, 2008, 『「愛」なき国——介護人材が逃げていく』阪急コミュニケーションズ.
- 佐藤智, 1987, 『看取りの医療』保健同人社.
- 佐藤守編, 1996, 『福祉コミュニティの研究』多賀出版.
- 佐藤信人, 2008, 『ケアプランの作成の基本的考え方』中央法規.

- 佐藤典正, 1987, 『細倉鉱山史』細倉鉱業所.
- 佐藤利明, 2007, 『地域社会形成の社会学——東北の地域開発と地域活性化』南窓社.
- 七ヶ宿町, 2009, 『七ヶ宿町高齢者福祉計画・介護保険事業計画』.
- 清水哲郎編, 2007, 『高齢社会を生きる——老いる人／看取るシステム』東信堂.
- 副田義也, 2001, 『死の社会学』岩波書店.
- , 2008, 『福祉社会学宣言』岩波書店.
- 菅原真枝・小口翠, 2002, 「介護を抱える高齢者夫婦の老いと生と死」『2001年度社会学研究調査実習調査報告書ライフヒストリー調査』東北大学文学部社会学研究室, 52-73.
- 菅原真枝・本間照雄, 2005, 「ユニットケアにおける職員配置を規定する要因——宮城県の介護老人福祉施設に対する質問紙調査から」『社会学年報』34: 163-81.
- 杉座秀親, 2000, 『現代の生活と社会学——消費する身体と時間』学文社.
- 鈴木勉・塩見洋介他, 2003, 『ノーマライゼーションと日本の「脱施設」』かもかわ出版.
- (T)
- 多田富雄・今村仁司編, 1987, 『老いの様式——その現代的省察』誠信書房.
- 高城和義, 2002, 『パーソンズ——医療社会学の構想』岩波書店.
- 武田和典, 2002, 「ユニットケアとはなにか——なぜ, ユニットケアなのか」特養・老健・医療施設ユニットケア研究会編『ユニットケア最前線』医歯薬出版, 2-4
- , 2003, 「ユニットに流されず, ユニットケアから新たな流れを作り出すために——実践者が語り, 施設が変わる!」特養・老健・医療施設ユニットケア研究会編『ユニットケア白書 2003』筒井書房, 34-7.
- , 2007, 「ユニットケアのこれからを考える——利用者主体の施設から住民主体の地域へ」第9回ユニットケア全国セミナー実行委員会編『最新のユニットケアがわかる7』筒井書房, 173-5.
- 武田和典・泉田照雄・宮代隆治, 2003, 「ユニットケアと小舎制——何が施設を変えたのか」特養・老健・医療施設ユニットケア研究会編『ユニットケア白書 2003』筒井書房, 8-28.
- 武田和典・高橋誠一・池田昌弘, 2008, 「ユニットケアが目指してきたもの」『Juntos』CLC, 44: 2-7.
- 武川正吾, 2006, 『地域福祉の主流化』法律文化社.
- 武川正吾・三重野卓編, 2007, 『公共政策の社会学——社会的現実との格闘』東信堂.
- 竹内孝仁, 1995, 『医療は「生活」に会えるか』医歯薬出版.
- 谷真介・赤坂三好, 2006, 『トラのおんがえし』佼成出版社.
- 登米市, 2009, 『登米市高齢者福祉計画・第4期介護保険事業計画』.
- 富谷町, 1994, 『とみや保健福祉プラン21——いきいきと暮らせるふれあいの里』.
- , 1999, 『ふるさと長寿21——いきいきと暮らせるふれあいの里』.
- , 2009, 『富谷町高齢者保健福祉計画——第4期富谷町介護保険事業計画』.
- 富谷町・(社)永楽会, 2009『地域福祉フォーラム記念大会 第10回地域福祉フォーラム2009』14.
- 外山義, 2003, 『自宅でない在宅——高齢者の生活空間論』医学書院.
- , 2001, 『介護保健施設における個室化とユニットケアに関する研究』平成12

年度老人保健健康増進等事業費補助金研究報告書, 医療経済研究機構。  
——, 2002, 『介護保険施設における個室ユニットケアに関する研究』平成 13 年度  
老人保健健康増進等事業費補助金研究報告書, 医療経済研究機構。  
富山県民間デイサービス連絡協議会, 2003 『富山からはじまった共生ケア』筒井書房。

#### (U)

上野千鶴子・大熊由起子・大沢真理・神野直彦・副田義也編, 2008, 『ケアその思想と実  
践 2 ケアすること』岩波書店。  
鶯沢町史編集委員会編, 1987, 『復刻版 細倉町史』鶯沢町公民館。

#### (W)

渡邊洋一, 2005, 『コミュニティケアと社会福祉の展望』相川書房。

#### (Y)

山本英治, 1982, 「生活と地域社会」松原治郎・山本英治編『人間社会の社会学』垣内出版。  
山本恵子, 2002, 『行財政からみた高齢者福祉——措置制度から介護保険へ』法律文化社。  
山本努・徳野貞雄・加来和典・高野和良編, 1998, 『現代農山村の社会分析』学文社。  
山脇博紀, 2005, 「障害児・者入所施設におけるユニットケアの試み」『医療福祉建築』151:  
4-5。  
山崎英樹, 2006, 『介護道楽・けあ三昧』雲母書房。  
矢内諭, 1992, 『農村の変動と生活』南窓社。  
安井喜行, 2008, 「施設と地域福祉——地域福祉活動の拠点としての施設」『住民主体の地  
域福祉論』法律文化社, 221-32。  
読売新聞生活情報部編, 2008, 『つながる——信頼でつくる地域コミュニティ』筒井書房。  
好井裕明, 2006, 『「あたりまえ」を疑う社会学——質的調査のセンス』光文社。  
湯川利和・延藤安弘, 1989, 『世界の高齢者住宅——プライバシーと自律の実現』鹿島出  
版会。

#### (Z)

全社協・老人ホームにおける入所者処遇に関する研究会, 1979, 『老人ホーム処遇論』全  
国社会福祉協議会。